

高级日语系列教材

王健宜·主编



高级

日语泛读

(附参考答案)

王健宜 张季芸 魏建平
编著

南开大学出版社

下



高级日语系列教材

高级日语泛读 (下)

(附参考答案)

主编 王健宜

编著 王健宜

张季芸

魏建平

南开大学出版社

天津

图书在版编目(CIP)数据

高级日语泛读. 下 / 王健宜主编. —天津: 南开大学出版社, 2006. 1

(高级日语系列教材)

ISBN 7-310-02424-9

I. 高... II. ①王...②张... III. 日语—阅读教学—高等学校—教材 IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2005)第 118106 号

版权所有 侵权必究

南开大学出版社出版发行

出版人: 肖占鹏

地址: 天津市南开区卫津路 94 号 邮政编码: 300071

营销部电话: (022)23508339 23500755

营销部传真: (022)23508542 邮购部电话: (022)23502200

*

南开大学印刷厂印刷

全国各地新华书店经销

*

2006 年 1 月第 1 版 2006 年 1 月第 1 次印刷

787×1092 毫米 16 开本 11.875 印张 289 千字

定价: 20.00 元

如遇图书印装质量问题, 请与本社营销部联系调换, 电话: (022)23507125

序 言

《高级日语系列教材》是为高等院校日语专业高年级（本科三、四年级以及研究生一、二年级）专门编写的，全套教材由语言基础、文学文化、口笔翻译、国情知识四个部分组成，共 12 种 14 册。它们分别是：《高级日语精读》（上、下）、《高级日语泛读》（上、下）、《高级日语口译》、《高级日语笔译》、《高级日语写作》、《高级日语听力》、《日本文学史》、《日本古典文学》、《日本近代文学》、《日本现代文学》、《日本历史》、《日本文化》。

本套教材中的《高级日语精读》是天津市“十五”规划教材的重点项目，它以全新的体例和结构，展现了教材编写的新思路，反映出日语教学领域以教材引领的教学改革的积极探索。同时，《高级日语精读》以全新的视角和全新的选材，为日语教学本身提供了更为丰富的素材。它的 12 个单元 36 篇文章，从关注中国和日本、关注世界、关注人类的大视野出发，既有物质世界的问题，也有精神世界的问题；既有现实的思考，也有未来的展望。每个单元的文章都精挑细选，话题前卫、语言鲜活、视角独特、特色鲜明。《高级日语精读》既是本套教材的标志性成果，也是其他各册教材的编写宗旨。

本套教材的另一个特色是，有些教材是迄今为止国内外首次尝试编写的创新教材。例如，《日本现代文学》，在研究日本近代文学的基础上，勇于探索日本文学领域出现的新情况，着力在第二次世界大战结束、日本战败以来的文学发展过程中梳理出一条清晰的日本文学和社会的脉络，对于我们认识和把握日本文学和社会具有重要意义。

本套教材在体系上的规范也具有独到之处。例如，文学领域由《日本文学史》、《日本古典文学》、《日本近代文学》、《日本现代文学》四册构成，体系清晰、完整，对日语专门人才培养具有指导和规定性的重要意义。又如，《日本古典文学》、《日本近代文学》、《日本现代文学》均由若干课构成，打破了传统的编写模式，突出了课堂教学的特点，主题突出、目的明确，便于教学活动的开展和检查。

本套教材是南开大学日本语言文学学科 30 多年来开展的丰富多彩的教学、科研活动的一个缩影，也是我们理论联系实际，一切从教学出发的一次探索和尝试。由于我们水平有限，教材中一定有很多缺点、谬误，诚恳地希望学界同仁和广大读者给予批评、指正。

主编 王健宜

2005 年 5 月于南开园

本书特色

- 1、学有所思。本书文章题材广泛，内容丰富。涉及日本社会、经济、文化、思想各领域，选材角度独特，反映了人们普遍关注的社会问题，使读者在阅读文章、提高日语阅读水平的同时，不仅可以加深对日本社会的了解，更可以加深对日本人内心世界的深层次了解，以及对日本、日本民族、日本社会的深层次思考。
- 2、学有所依。本书在每课的课前编排有新词汇及难解词语的解释，帮助读者做阅读前的准备；课文后有背景知识点的介绍，帮助读者在阅读后解疑答难，进一步扩充相关知识储备。帮助读者提高阅读速度，正确领会文章内容。
- 3、学有所验。本书每课课后都附有检测性练习，不仅检测每课基础知识的掌握情况，更是通过检测帮助读者了解自己对该课内容的理解，同时通过练习提炼出每一课的语法重点，相关知识的侧重点，使得读者能够做到对自己的语言学习进行同步检验。
- 4、学有所得。课后所附参考答案既是读者自测自练后对自己的评价依据，同时又自成体系，是全书内容精华之所在。既包括惯用词组、搭配，语法句型练习，也包括社会、历史、政治、经济、宗教相关知识的归纳，在检验自己阅读水平的同时，将知识点融会贯通，为多角度系统了解日本提供了一个平台。

目 录

第1課	県民性	1
第2課	日本と世界のかかわり	8
第3課	建築の流れ	15
第4課	神道と仏教の同時並信	22
第5課	育てたように子は育つ	29
第6課	進む医療技術	36
第7課	平成皇室の運命	43
第8課	契約社会	50
第9課	チャンスの宿る「整理整頓」法	57
第10課	日本の英雄	64
第11課	郵政「民営化」という名の茶番	73
第12課	桜	80
第13課	日本人の心遣いと勘	86
第14課	暮らしと心理学	94
第15課	樹木と人	102
第16課	点は墜石のごとく	109
第17課	情報通信	115
第18課	贈答のエチケット	122
第19課	現代の芸術	129
第20課	野口英世	136
	参考答案	143

第1課 県民性

新しい言葉

- 近江商人 (おうみあきんど) 近江 (今の滋賀県) 出身の商人のこと。室町時代に東海・北陸方面と京都を結ぶ商業活動を中心に発祥し、江戸時代には伊勢商人と共に多くの成功者を出した。江商 (ごうしょう)
- 比肩 (ひけん) 肩を並べること、優劣のないこと、同等なこと。
「この点では彼と～できるものはない」
- 一攫千金 (いっかくせんきん) (大金を一掴みでとる意) ちょっとした仕事で、勞せず
に一時に巨大な利を得ること。「～を夢見る」
- 乱高下 (らんこうげ) 相場の動きが高低はなはだしく一定しないこと。
乱調子。
- 石 (こく) 大名・武士などの知行高を表す単位。「加賀百万石」「石高」
- 切磋琢磨 (せっさたくま) 玉・石などを切り磨くように、道徳・学問に勉め励んで
やまないこと。また、仲間同士互いに励まし合って学徳
を磨くこと。
- 末裔 (まつえい) その血筋・名籍を伝える何代も後の人、子孫、末孫。
「平家の～」
- アルペン・スキー (Alpen<ドイツ>+ski<和>) アルプス地方で発達した山岳スキー。
- ヘブライ人 (Hebrew・じん) ユダヤ人、イスラエル人。他民族からの呼称。
- 十把一絡げ (じっばひとからげ) どれもこれもあまり価値のないものとして、多数を一まと
めに扱うこと。また、何もかも一緒くたにして扱うこと。

本文

「あの人は青森県出身だから情っ張りとかいって強情だ」「さすが江戸っ子だけあって気風がいいね」「長州の人は徒党を組むのが好きだ」などとよく言う。私たち滋賀県人も、何をやっても「さすが近江商人だけあって算盤勘定がうまい」などと言われるし、福岡県の男性は義理人情に厚い「川筋もん」と見られている。

「日本海側には秋田、新潟、金沢など一県おきに美人がいる」「沖縄の人は色が黒くて眉毛が濃い」などといった身体的な特徴が語られることもある。もっとも、そういったもの

を地元の人がよいと思っているかどうかは別である。JAL や ANA の沖縄観光キャンペーン・ギャルはこんがり日焼けした健康美人だが、沖縄の人は太陽も海も嫌いである。ギラギラ照りつける日差しは辛いし、波が荒い海は怖いものである。だから、沖縄の人は海で泳ぐことはあまりしないし、泳げない人が全国で一番多い。沖縄の人が海へ行くのは夕方になってからで、海辺でバーベキュー・パーティーをして楽しむだけが多い。美人だと言われるのは色白で細くたおやかな女性で、ミス沖縄になるのも航空会社のキャンペーンギャルとは百八十度イメージが違う。

あるいは、「長野県人は教育熱心だ」「名古屋の結婚は派手だ」「富山の家は大きくて立派だ」といった消費性向みたいなことも県民性の一側面である。もっとも、いまや長野県は全国最低水準に近い教育貧困県だからまったくの伝説に過ぎないといったこともあるが、それでも、真面目さということでは教育県の伝統は残っている。「関西の人はビーフが好きだが、関東ではポークだ」などといった嗜好についての違いの指摘もある。これは方言にも影響して、関東では「牛肉、豚肉、鶏肉」と区別するところを関西では「肉、豚、かしわ」という。東京の新宿中村屋の名物の一つは「肉まん」だが、大阪で人気の 551 蓬莱のは「豚まん」だ。もっとも、北海道へ行って大衆食堂に入ったら「すき焼き」のほかに「牛すき焼き」というメニューがあった。ここでは「すき焼き」といえば特に断らない限りは豚肉であるのだ。私の友人で十勝の農家出身の人は、北大に入って札幌に出てくるまで牛肉を食べた経験がなかったそうだ。昔は北海道で牛肉といえばホルスタインの乳牛でミルクが出なくなったのを潰したものが多く、「乳臭くて不味いもの」という感覚があったというのである。日本中で美味しい肉が食べられるようになったのはそんなに昔のことではない。

こうした習慣とか生活様式は、西日本と東日本で大きく分かれる。ウナギのさばき方が背開きか腹開きかの境は浜名湖というが、大体ものによるが、関ヶ原と浜名湖の間どこかで線が引かれる。

こうした県民性を語ると、「日本は狭いのにな」という言葉がすぐに聞かれる。しかし、これはまったくの間違いだ。日本はとても広い国なのだ。狭いというのは、面積が狭いというだけのことだ。しかも山がちだから耕地にできる面積は特に小さいから、農業社会だったころは人口を増やせないことになり大変な問題だった。だからすぐに「日本は狭い」というのだが、風土を語るについて問題なのは、都市と都市の距離とか、自然条件の多彩さである。この観点からいうと日本列島は西ヨーロッパ全体と同じくらいの地理的な広がりをもっている。例えば、東京と福岡の距離はパリとベルリンのそれとほぼ同じだし、札幌と那覇はロンドンとアテネと同じくらい離れている。東京と大阪でもロンドンとパリより離れている。気候風土ということでも、亜熱帯の南西諸島や小笠原から世界でも有数の豪雪地帯まであるし、海もあればアルプスに比肩する高山まである。東京や京阪神のような大都市から日帰りでもアルペン・スキーができるというようなところは世界でもほとんどない。パリやロンドンの住人がスキーに行くのはアルプスである。かつてサンクト・ペテルブルグ(レンニングラード)が冬季オリンピックに立候補したとき、スキー競技の会場は黒海沿岸のクリミア半島にしたいとしていた。ロシア北部にはスキー場がないのだ。このように、日本人の常識に反して、日本は人口の割りに広くて恐ろしく多様な顔を持った国なのだ。

県民性は どうして生まれるのだろうか。幾つかの要素を挙げるなら、「自然環境」「経済条件」「歴史的な事情」「文化的な伝統」などが挙げられるだろう。

自然でも一番基本になるのは気候である。静岡のような気候が温暖で恵まれたところでは気分ものんびりと開放的になる。沖縄のように一年中暑くて湿度が多いところだと、すべてが気だるくなる。雪国ではじっと我慢である。

風景も性格に影響を与える。桂浜の荒波をみて育った土佐の人は野心的になるし、京都東山のやさしい山並みを毎日見ていれば少なくとも表面は穏やかな人間になるだろう。岸・佐藤兄弟の生まれ育った山口県田布施町は、地図の上では海に面した町である。その割にはこの兄弟は粘着質だと思っていたが、田布施の彼らの生家を訪ねて分かったことは、海に近いことは近いのだが、その集落は低い里山に囲まれたところにあり霧が立ち込めているようなところだったので、なるほどそうだったのかと納得した。

経済条件ということでは、例えば、「奈良の大仏商法」という言葉があるが、観光客が多く来るところでは、それを相手にうまく立ち回って商売することが容易なだけに、まじめな努力より楽をしようという面がないわけでもない。漁村では、大漁になれば一攫千金で、それが楽しみだからうまくいけば豪快に飲み騒ぐ気質が出来上がる。隠岐の島に赤坂にもそうはないほど立派なクラブがあって、大漁の日には思いっきりお金を使ってくれるので豪華でなくてはならないのだと聞いた。それでも不満足で沖縄の宮古島の漁民が大漁に喜んで銀座のクラブまで乗り込んで大騒ぎをして何百万円払ったといった伝説もある。農業でも安定した米などに比べて、花だとか野菜とか小豆など商品作物は市況の乱高下が激しい。そういうものの産地は農村的ではない雰囲気がある。

歴史的な事情も県民性に影響を与える。例えば、大きな藩のあったところでは秩序が重んじられるし、若干、権威主義的で官尊民卑だ。加賀百万石の石川県、島津家七三万石の鹿児島県、伊達六三万石の宮城県のビッグ・スリーなど皆そうだ。それに対して、小領主しかいないところでは、自分たちですべてを守らなくてはならないから、集落単位での団結心が強い。

あのときの戦争で負けたからなどという話もよくある。明治維新の原動力になったのは関ヶ原の負け組である長州や薩摩だが、負けて酷い目にあったのは庶民でなくお侍だけである。それでも防長二国など民衆まで含めて国をあげて三百年前の恨みを晴らすべく切磋琢磨し、ついには目的を達した。逆に、東北では戊辰戦争の恨みつらみが常に語られ風土にも影響しているが、会津や長岡でもむしろ民衆は官軍に協力的だったし、それをみた板垣退助が自由民権でなくては国を守れぬと思い立ったくらいだ。敗戦で口惜しい思いをしたのは武士だけである。しかし、今の東北各県では県民全体が白虎隊の末裔のような気分になっている。

スポーツでもいったん自信がつくと強くなる。高校野球でも広島や愛知のチームは大体強いし、いつも負けている県はなかなか二回戦へ進めない。滋賀県は夏の甲子園で一勝もしたことのない最後の県だったが、いったん勝利の経験を掴むと、その後は、毎回、結構健闘している。

それから、県民性というのは、いったん評価ができてしまうと、それに合わせたほうが本人も楽な面がある。土佐の女は酒がいけるということになると、高知出身の女性は職場

でも酒が飲めるに違いないと見られるから飲まないわけには行かなくなるし、京都出身の女性は淑やかに振舞わざるを得ない。大阪出身だと河内弁で喋らないと変わり者のように見られるとか、佐賀出身の男性も葉隠れの古武士然としてないと期待を裏切ってしまうのだ。

さらに、ここで「民族的要素」というか「遺伝子」についても触れておかなければなるまい。日本人の起源については、大陸と地続きだった時代にやってきた人たちも含めて縄文時代に土着していた原日本人というべき集団がいたが、弥生時代からかなり大量に大陸からの移民が継続的に行われ、さらに漂流や貿易などにより、海洋を通じて様々な種族の渡来もあったというのが普通の考え方であろう。最近では、弥生時代以降の渡来人が日本の祖先として重要であるとの考え方がより強くなっているようだが、文化的底流としての縄文人の貢献は無視できないものである。

ただ、それぞれの集団が「民族」といえるものであったとはいえない。民族とは優れて主観的なものである。例えば、イタリア人とかフランス人などといった民族は人種的には何の意味もなく、むしろ言語集団である。ユダヤ人は宗教集団であって、世界のユダヤ人のほとんどは古代ヘブライ人の血を引かないとすら言われる。ロシア人とか漢人についても、ロシアや中国では自己申告が原則だから、少数民族の優遇策を発表したとたんに数が変わったりする。

日本人についても様々な起源を持つ人たちが、長い歴史の中で日本語や日本的な宗教、名前といったものを創り上げて大和民族というものを形成していったというべきである。ただ、沖縄や北海道といった遠隔地では長らく孤立し、むしろ別の文化を発展させていった人たちがいた。もちろん、北九州から関西にかけて弥生時代以降に大陸からやってきた人の割合がやや高いといったことは言えるだろうが、あまり県民性と遺伝子的要素を関連付けるのには無理がありそうだ。

特定の都道府県出身の人を十把一絡げに捕らえがちなのもよいことではないし、しばしばこじつけもあるように思うからである。栃木県人は「無個性なのが個性」で、群馬県人は「青越しの金を持たない」と言い切ってしまうとよいわけでもない。

宇宙から見る日本列島は、青い海の上に美しい弧を描いている。そこに個性豊かな歴史と文化に彩られた四七都道府県が綺羅星のように並ぶ。都道府県がどうして誕生し、日本という国の歴史にどう関わってきたか、こうした謎を解き明かし、そこに住む人々や文化の魅力、さらには今後の展望を世間的な常識にとらわれずに考えてほしいのだ。

(八幡和郎・「47 都道府県うんちく事典」より)

言葉と知識のポイント

- 1、関ヶ原（せきがはら）：岐阜県南西端、不破（ふわ）郡の町。慶長5年（1600）9月15日、関ヶ原で、石田三成の西軍と徳川家康の東軍とが天下を争った合戦。諸大名はいずれかに属したから天下分け目の戦いと呼ばれた。以来、一般に重大な勝敗を決する戦いを「天下分け目の関ヶ原」という。
- 2、岸、佐藤：岸信介（きし・のぶすけ）（1896～1987）政治家。山口県生まれ、東大卒。満州国高官を経て、1941年東条内閣の商工相。A級戦犯容疑で逮捕。56年石橋内閣

の外相、石橋の病氣辞任後首相に就任。60年新日米安保条約批准を強行して総辞職。タカ派として影響力をもった。佐藤栄作(さとう・えいさく)(1901~1975)政治家。山口県出身。岸信介の弟。東大卒。吉田茂政権のもとで各省大臣を歴任。1964~72年、3次にわたり自民党内閣を組織。在任中に沖縄返還が実現。ノーベル賞受賞。

- 3、戊辰戦争(ぼしんせんそう): 1868(慶応4・明治1、戊辰の年)から翌年まで行われた新政府軍と旧幕府側との戦いの総称。鳥羽・伏見の戦、彰義隊の戦(上野戦争)、長岡藩・会津藩との戦争、箱館戦争などを含む。戊辰の役。
- 4、板垣退助(いたがきたいすけ): (1837~1919)政治家。土佐藩士。討幕運動・戊辰戦争に参加、征韓論政変で下野。翌年民選議員の設立を建議、自由民権運動の指導者となる。1881年(明治14)自由党を創設。帝国議会開設後、立憲自由党総理。98年大隈重信とともに組閣、内相。政友会創立を機に引退。
- 5、白虎隊(びゃっこたい): 1868年(慶応4)戊辰戦争に会津藩が組織した藩士の子弟の隊の一。官軍との戦いに敗れ、会津城が火煙に包まれたのを見て落城と速断、飯盛(いいもり)山で自刃。

練習

テスト一: 次の単語の読み方をチェックしてください。(各0.5点、計20点)

嗜好()	土佐()	色白()	小笠原()
生家()	黒海()	温暖()	隠岐()
荒波()	桂浜()	気質()	田布施()
里山()	小豆()	大漁()	若干()
伊達()	領主()	薩摩()	侍()
末裔()	健闘()	淑やか()	地続き()
土着()	大和()	ANA()	JAL()
宵越し()	綺羅星()	粘着質()	乱高下()
宮古島()		義理人情()	
近江商人()		一攫千金()	
切磋琢磨()		戊辰戦争()	
官尊民卑()		十把一絡げ()	

テスト二: 次の()の中に当てはまる語句を記入してください。(各3点、計24点)

- 1、美人だと言われるのは色白で細くたおやかな女性で、ミス沖縄になるのも航空会社のキャンペーンギャルとは()が違う。
- 2、ウナギの捌き方が背開きか腹開きかの境は浜名湖というが、大体ものによるが、()の間のどこかで線が引かれる。
- 3、県民性はどのように生まれるのだろうか。幾つかの要素を挙げるなら、「()環境」「()条件」「()的な事情」「()的な伝統」な

どが挙げられるだろう。

- 4、縄文時代に土着していた原日本人というべき集団がいたが、() からかなり大量に大陸からの移民が継続的に行われ、さらに漂流や貿易などにより、海洋を通じて様々な種族の渡来もあったというのが普通の考え方であろう。
- 5、栃木県人は「無個性なのが個性」で、群馬県人は()) と言い切ってしまうわけでもない。

テスト三：最も関連のあるもの同士を線で結んでください。(各 1.6 点、計 16 点)

- | | |
|----------|--------|
| ① 近江 | a クリミア |
| ② 土佐 | b 宮古島 |
| ③ 加賀 | c ビーフ |
| ④ 薩摩 | d 河内 |
| ⑤ 隠岐 | e 鹿児島県 |
| ⑥ 沖縄 | f ユダヤ |
| ⑦ 大阪 | g 島根県 |
| ⑧ 黒海 | h 滋賀県 |
| ⑨ ホルスタイン | i 石川県 |
| ⑩ ヘブライ | j 高知県 |

テスト四：次の文を中国語に訳してください(各 5 点、計 40 点)

- 1、JAL や ANA の沖縄観光キャンペーン・ギャルはこんがり日焼けした健康美人だが、沖縄の人は太陽も海も嫌いである。キラキラ照りつける日差しは辛いし、波が荒い海は怖いものである。
- 2、もともと、いまや長野県は全国最低水準に近い教育貧困県だからまったくの伝説に過ぎないといったこともあるが、それでも、真面目さということでは教育県の伝統は残っている。

- 3、このように、日本人の常識に反して、日本は人口の割りに広くて恐ろしく多様な顔を持った国なのだ。

- 4、経済条件ということでは、例えば、「奈良の大仏商法」という言葉があるが、観光客が多く来るところでは、それを相手にうまく立ち回って商売することが容易なだけに、まじめな努力より楽をしようという面がないわけでもない。

- 5、滋賀県は夏の甲子園で一勝もしたことの無い最後の県だったが、いったん勝利の経験を掴むと、その後は、毎回、結構健闘している。

- 6、土佐の女は酒がいけるということになると、高知出身の女性は職場でも酒が飲めるに違いないと見られるから飲まないわけには行かなくなるし、京都出身の女性は淑やかに振舞わざるを得ない。

- 7、もちろん、北九州から関西にかけて弥生時代以降に大陸からやってきた人の割合がやや高いといったことは言えるだろうが、あまり県民性と遺伝子的要素を関連付けるのには無理がありそうだ。

- 8、宇宙から見る日本列島は、青い海の上に美しい弧を描いている。そこに個性豊かな歴史と文化に彩られた四七都道府県が綺羅星のように並ぶ。

第2課 日本と世界のかかわり

新しい言葉

封じ込め政策（ふうじこめせいさく）

資本主義諸国が協力して、共産主義諸国を封じこめ、その勢力の拡大を防止しようとする政策。1947年ころからアメリカがとった一連の世界政策。

撤廃（てっぱい）

撤去して廃止すること。取り除きやめること「制限を～する」

異端（いたん）

正統からはずれていること。また、その時代において正統とは認められない思想・信仰・学説など。「～の説」「～者」

ナチス (Nazis <ドイツ>)

「国家社会主義ドイツ労働者党」の通称、また、同党の党员 (Nazi) の複数形

虐殺（ぎゃくさつ）

むごたらしい手段で殺すこと。「捕虜を～する」

樺太（からふと）

（露：サハリン）北海道の北に位置する樺太島を指す地域名称である。現在は全域がロシア連邦の支配を受け、樺太はサハリン州の主要部を構成している。

山積（さんせき）

山のように積ること。片付けるべき仕事、沢山たまること。「難問が～する」

拉致（らち）

無理に連れて行くこと。らっちともいう。「何者かに～される」

本文

狭い国土に1億2000万人が住む日本は、資源に恵まれていません。そのため、外国から原料を買い、加工製品を売っていくことで日本経済は成り立っています。またグローバル化が進み社会・文化的にも交流が増える中、いずれの国とも平等で友好的な関係を築いていくことがいっそう大切になっています。

日本とアメリカとの関係の歩み

敗戦から半世紀の間に、アメリカは日本に大きな影響を及ぼしました。政治、経済、産業、社会、文化全般にわたって日本を変えたといっていいいでしょう。その根本になったのが新憲法に盛り込まれた民主主義、自由主義、平和主義の考え方です。戦後、女性の参政権が認められ、新しい義務教育が始まり、思想や表現の自由が認められ、徴兵されることもなくなりました。

しかし、当のアメリカは人種差別問題を抱えていたうえに、反ソ政策によって思想弾圧

を強めました。1950年に朝鮮戦争が始まると、1951年、アメリカはサンフランシスコ平和条約によって日本を独立させ、日米安全保障（安保）条約を締結して、日本の再軍備を進めました。10年後、安保条約は多くの国民の反対を押し切って改定され、日本はアメリカのソ連封じ込め政策の中に組み込まれました。

また、アメリカはベトナム戦争で敗北を喫したうえに、巨額の戦費によって国家財政が赤字になり、経済は停滞しました。その逆に日本は、諸外国にも類例をみない高度経済成長を遂げ、豊かな国民生活を実現しました。一方でアメリカへの輸出も急増し、日米間には経済摩擦が生じました。その結果、アメリカは日本の産業保護政策を批判し、各種の保護規制の撤廃を求めるようになりました。

90年代に入って規制緩和が進むと、アメリカの銀行や証券会社などが次から次に日本に入ってきました。日本の企業は、折からの不況の影響もあり、整理・統合を強いられ、多くの中小企業が倒産に追い込まれました。

一方、冷戦終結によって、沖縄での米軍基地の縮小・返還の実現が期待されました。しかし、アメリカは極東の周辺事態（地域紛争）に備える必要があるとして、「日米防衛協力のための指針（ガイドライン）」が見直され、返還が決まったのは普天間飛行場だけでした。また、沖縄では米兵による女子小学生暴行事件などが起きており、日本政府は日米地位協定の改定を求めています。また、神奈川県厚木基地の米軍機の発着訓練による騒音問題と同様、いまだ解決には至っていません。

さらに、平和憲法の理念に沿って宣言した非核三原則も、日本に寄港する原子力空母の核ミサイルによってほとんど骨抜きになっています。今後、日米両国のパートナーシップを深めていくうえで、こうした問題が両国間の大きな障害にならないようにする必要があります。

日本とヨーロッパとの関係の歩み

日本とヨーロッパの関係は、1543（天文12）年、種子島にポルトガル人が漂着して鉄砲を伝えたときに始まります。その後、宣教師ザビエルが訪れ、キリスト教がもたらされました。ポルトガルの宣教師らが九州で布教するとともに学校や病院を開き、日本に西洋の文化を伝えました。江戸時代には鎖国政策により、ヨーロッパ諸国の中での相手国はオランダだけになってしまいましたが、明治期になると一気にヨーロッパの文物が入り、近代日本の基礎がつくられました。

近代国家の基礎として、憲法はプロシア、民法や刑法はフランスのもの、学校制度はフランスなどを参考にしました。福沢諭吉や中江兆民などはイギリス、フランスの自由主義、功利主義など啓蒙思想を紹介し、医者でもあった森鷗外は留学先からドイツ文化をもち帰りました。島崎藤村はフランスでロマン主義の影響を受け、板垣退助は文豪ユーゴーと出会い、政治教育の大切さを教えられました。戦前は西欧文化の導入が日本の近代化の主流だったのです。

戦後、GHQ（連合国軍総司令部）の占領・管理下に置かれた日本はアメリカの影響のもと、西欧諸国との結びつきは急速に薄れました。但し、長い伝統をもつ西欧市民社会は、アメリカと違い、戦争を避ける歴史上の教訓が生きています。キリスト教による異端者へ

の迫害、アフリカ、アジア、中南米の植民地での先住民に対する抑圧、ナチスによるユダヤ人虐殺など、過去の苦い経験を踏まえ、そのうえに形成された西欧社会からは、現在でもなお学ぶべきことは多いでしょう。

望まれるロシアとの友好関係

ロシアは社会主義から資本主義への転換のなか、政治・経済・社会の混乱を来しています。また、チェチェンなどの民族問題も抱えています。しかし、広大なシベリアは石油、天然ガス、鉱物資源、森林資源などに恵まれ、無限の可能性をもっています。また、バイカル・アムール鉄道（BAM）がシベリア開発を目的として敷設され、1989年に営業を開始しています。ロシアと日本が経済協力、共同開発などを介して友好を深めることは、今後の国境問題の解決にも繋がることでしょう。

北方領土として帰属が争われているのは歯舞諸島、色丹、国後、択捉の千島四島です。米英ソによるヤルタ協定によって日本の領土が画定され、それを前提にしたポツダム宣言を受託して日本は降伏しました。しかし、南千島に関して日本は、日露和親条約や樺太・千島交換条約をもとに返還を要求してきました。

歯舞、色丹の2島についてはソ連側も返還の意思はあったのですが、米ソの対決が深まる中で立ち消えになりました。現在は4島一括返還を基本に交渉が進められています。同時にビザなし墓参り・渡航、学術交流など、既成事実を積み上げる動きも起こっています。130年前に日ロはサハリン領有をめぐる争い、同島を両国の共有にして両国民の共住を決めた経緯もあります。国境紛争は武力衝突に繋がりがちですが、お互いの立場を尊重することによって共存共栄を図る新しい道を探っていくことが最も望まれているといいいでしょう。

朝鮮とのパートナーシップ

渡来人によって学問、芸術、宗教、各種の優れた技術がもたらされるなど、日本と朝鮮半島との交流は古代期から盛んでした。ところが、戦国末期になると豊臣秀吉が2度にわたる朝鮮侵略戦争をしかけ、日朝両国に多大な損害をもたらしました。さらに明治期になると日本が韓国を併合して、日本語の使用や創氏改名などを強制しました。関東大震災（1923）では暴動を起こすという風評で約6000人もの朝鮮人が殺害されました。さらに、戦時中には多くの朝鮮人が徴用され、炭鉱、製鉄所、鉄道建設などに強制連行される一方、若い女性も従軍慰安婦として戦地に送られました。

終戦によって、朝鮮に対する日本の支配は終わりましたが、戦地へ連行された膨大な数の朝鮮人兵士や労働者、慰安婦はそのまま放置されました。1950年に朝鮮戦争が起きると朝鮮人同士が南北に分かれて戦うことになりました。3年後、100万を超える死者を出して戦争はとりあえず終わりました。そして、南北朝鮮は北緯38度線を境に分断されたまま東西の冷戦体制に組み込まれる一方、日本は朝鮮戦争の特需景気のおかげで復興できたのです。

1965年、日本と韓国は日韓基本条約を締結し、国交を正常化しました。しかし、日本の植民地支配や戦争責任、強制連行や従軍慰安婦への戦後補償、竹島や漁業権をめぐる争いなど、両国間には多くの問題が山積し、かつ感情的対立もあって、日本にとって、韓国は

長い間「近くて遠い国」になっていました。

1998年2月、金大中の大統領就任によって、転機が訪れます。彼は、かつて東京のホテルから韓国情報部によって拉致・投獄（金大中事件）され、また光州事件では死刑判決を受けましたが、大統領就任後は日韓友好に力を入れ、日本の大衆文化を解禁しました。

また、2000年6月には北朝鮮の最高指導者・金正日総書記と首脳会談を行い、「統一の自主的解決」を盛り込む南北共同宣言に合意するなど、分断以来50年間対立を続けていた南北朝鮮に新局面をもたらしました。

北朝鮮は、建国者の金日成の指導で独自の社会主義路線を歩み、1994年の死後も金正日によってその路線が継承されています。米韓に対抗する軍事力の強化、とりわけ核兵器や長距離ミサイルの開発は世界の安全を脅すものと懸念されていました。日本はいまだ国交を結んでいませんが、飢饉に対して食糧支援をしたり、日本人拉致疑惑などでは、非公式の交渉を続けたりしています。

中国はどこへ行くのか

文化大革命ののち、中国は農業や工業、科学技術の近代化を進め、国家の体制を立て直しました。1970年代末からは、改革・開放によって個人の経済活動や経済特別区における外国企業の活動を認めるようになりました。さらに、従来の中指令型経済に市場原理を導入して、市場経済を取り入れる「社会主義市場経済」を推進し、経済規模の拡大を図っています。これは基本的には公有制ですが、資源配分、生産計画、価格決定、流通などを市場メカニズムに委ねる経済の市場化を核としています。この制度の導入によって、中国経済は急速に成長しています。

しかし、中国のこうした経済成長の陰に、収入格差による貧富の拡大、物価上昇、犯罪の増加、治安の悪化、農村の荒廃、環境汚染など、多くの問題が起きています。またチベット・新疆ウイグル自治区の民族独立問題、或いは台湾問題では「一つの中国」を主張している中国と「2国論」を主張している台湾とで意見の対立がみられます。

中国と日本は、日中平和友好条約（1978）を締結していますが、戦後処理が完全に解決したとは言いきれません。終戦時に中国に残された日本人孤児、いわゆる中国残留孤児も高齢化したり、帰国後の社会参加に支障を来すなど、多くの課題を抱えています。

また、戦時中の中国で日本軍が化学兵器を開発し、それを遺棄したことによる処理問題も緊急課題になっています。これは化学兵器禁止条約の対象になる化学兵器で、中国の調査では200万発、日本政府の調査でも70万発に上っています。さらに、南京攻略（1937）の際、日本軍によって行われた南京虐殺についてもいまだ歴史の解明は進んでいません。現在、中国へ旅行する日本人も、中国から留学や仕事のために来日する中国人も急増しています。それだけに過去の歴史をきちんと見つめ直し、将来に向けた新しい友好関係を築いていくことが望まれています。

（赤津政之・「社会の仕組みを学ぶ」より）